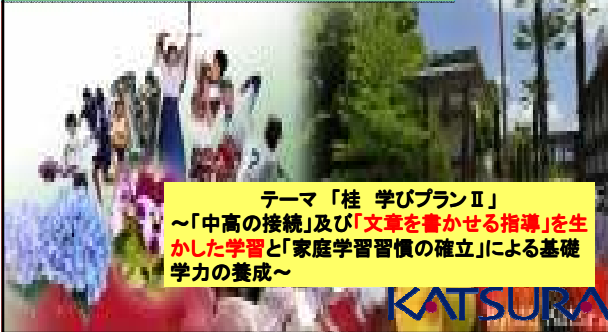


京都府立桂高等学校
学力向上フロンティア校事業概要



テーマ「桂 学びプランⅡ」
～「中高の接続」及び「文章を書かせる指導」を生かした学習と「家庭学習習慣の確立」による基礎学力の養成～

桂高校の重点教育目標

地域に根ざし、地域に愛される「**地元の高校**」を目指し、**学力の向上**と**調和のとれた人格**の形成を図る

キーワード

地域に愛される
「地元の学校」

学力の向上

調和のとれた人格
の形成

本年度の学校経営の重点(短期目標)

- ① 学力向上フロンティア校の取組を通して、**学習意欲の向上**と**家庭学習習慣の確立**により**基礎学力の定着**を図る。
- ② 生活習慣・規範意識の確立、自主自立の精神を育てる。
- ③ 部活動や特別活動を通し、豊かな人間性を養う。
- ④ 教職員は、自己研鑽、自己実現に努める。

KATSURA

桂高校の特色

桂高校は「**学習と部活動の両立**」を目標にあげる、**元気・活気・規律**のある学校です。

- 全校の**7割**が部活動に参加
- 全校生徒の約**半数**が**体育系**部員
- Ⅱ類**の約**8割**が部活動参加
- 年間約50人程度が**全国・近畿大会**に出場
- H21インターハイ参加の半数はⅡ類生徒
- H20インターハイ京都代表&府立医大合格

KATSURA

桂高校の特色

「高度な文武両道を目指す学校」
短時間集中練習

「1週間17時間以内の練習で近畿・全国へ行こう。」
バドミントン・陸上・ラグビー・弓道・剣道・ハンド
Ⅱ類生徒割合：28%・17%・34%・48%・45%・26%

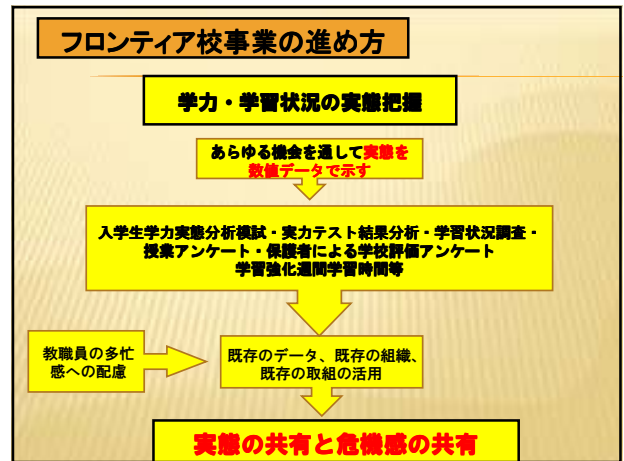
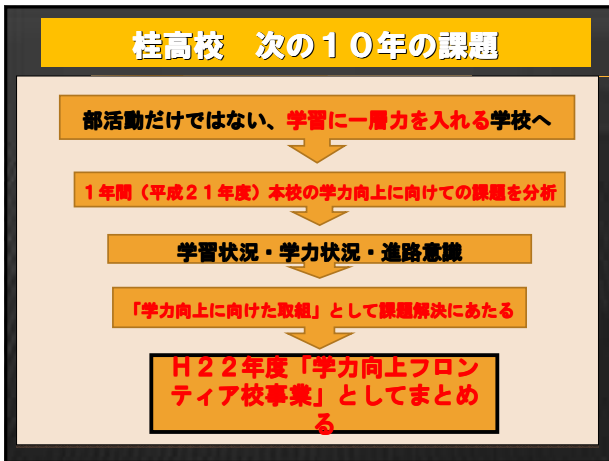
「専門学科の活躍」

ストックホルム「水」大賞H18世界準グランプリ
H21日本グランプリ
農業クラブ大会 3部門 近畿大会優勝 全国大会へ
アジサイ、蘭の品種改良・日本芝を用いた屋上緑化

KATSURA

ここ10年の変化

- 部活動が盛んで**競技実績**が向上
- 頭髪**身だしなみ・**遅刻指導**の徹底
- 専門学科**の活躍が**生徒募集**に結びつく。
- 専科**の入学生の**学力向上**
「普通科に行けないから専科に行く」改善
- 近くの中学校からの信頼**・・・近いから行く生徒増 Ⅱ類生徒の地元からの受検増
- 「**桂だより**」を全中学校配付・自治会を通して地域回覧板として地域に回覧

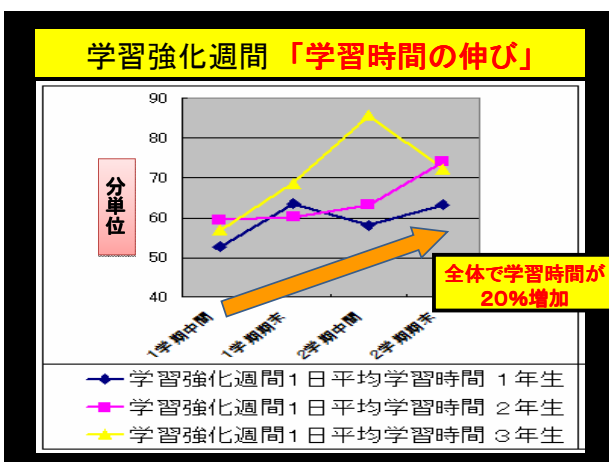


平成22年度桂高等学校 学力向上フロンティア校 事業のまとめ 「桂 学びプラン I」

H22年度の主な課題設定

- (1) 家庭学習習慣の確立と計画的な学習
- (2) 中学校の学習内容の未定着
- (3) 学習の方法がわからない
- (4) 英語力向上
- (5) I類学力上位層への対応
- (6) 部活動参加生徒への指導
- (7) 将来展望を持たせ学習意欲を向上させる
- (8) 教職員の指導力向上

課題(1)	「家庭学習習慣の確立と計画的な学習」
課題背景	毎日の家庭学習時間0h = 37% 1h以上 = 16%
具体的な 対応	<p style="text-align: center;">「学習強化週間」の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ■方法 <ul style="list-style-type: none"> ・考査2週間前に「考査時間割発表」 ・LHRで2週間分の「学習計画案」提出 ・期間中、毎日、「学習時間記録」回収 PC入力活用 ・「考査反省シート」記入 ■全生徒に実施 ■考査前2週間、年間5回で 計70日
成果と 課題	<ul style="list-style-type: none"> ◎期間中「全生徒の総学習時間」が5月→12月で20%増加 ○1年生「自宅学習時間1h以上」 春→秋 = 14%→19%に増加、「30分未満」= 64%→60%に改善 <small>(進路指導部H22調査) <継続実施></small>



課題(2)	「中学校の学習内容の未定着」
課題背景	「中学校時代の学習に不安」がある→55% 3年間で2割増加
具体的な 対応	<ul style="list-style-type: none"> ○「地元中学校との授業参観交流」 (2月、6月、2月) ○中学校の「振り返り学習」 (国・数・英・理・社)
成果と 課題	<ul style="list-style-type: none"> ○中学校の実態を知って振り返り学習・授業計画を作成 ○2年目も交流を実施(定期交流に発展) <p style="text-align: right;"><small><継続実施></small></p>

KATSURA

課題(3)	「学習の仕方がわからない」
課題背景	「学習の仕方がわからない」+ 「まじめだが成績が伸びない」=41%
具体的な対応	○「 学習オリエンテーション 」(新入生) ○丁寧な「 教科オリエンテーション 」
成果と課題	○1年生「 自宅学習0h生徒 」春→秋で3%改善 ○1年生「 自宅学習1h以上生徒 」5%改善 <継続実施>

課題(4)	「英語力向上」
課題背景	中学校時代の英語に不安=62.5% 苦手意識=37%
具体的な対応	○中学校の文法を中心とした「 振り返り学習 」を英語科として 中間考査 をめぐりに取り組む ○TOIEC Bridgeの 全員受験 、教材活用
成果と課題	○1年I類(発展除く)の「 英語進路マップ実力テスト 」 学習到達ゾーン 春→秋で C、Dゾーンが減少しBゾーンが増えた。

課題(5)	「I類学力上位層への対応」
課題背景	I類学力上位層の減少
具体的な対応	○ 1年次より発展クラス設置 (I類の学習母集団づくりを行う)
成果と課題	「 学習強化週間 」期間中の 学習総時間が 5月→12月で倍増 <継続実施>

課題(6)	「部活動参加生徒への学習指導」
課題背景	部活動加入率7割II類8割 部員の学習姿勢が授業に大きく影響
具体的な対応	○各顧問から、「 生活学習上のデータを基にした指導 」を実施 成績、遅刻欠席、授業態度、提出物、学習強化週間中学習時間等 ○「 週17時間以内の短時間集中練習で競技実績を向上させる 」という雰囲気醸成させる。
成果と課題	「 短時間効率的集中練習 」で全国・近畿大会に出場した部……弓道・バドミントン・剣道・ラグビー <継続実施>

部活動生徒への顧問からの指導例

1年生 授業状況アンケート・部活動生徒の学習時間、学習姿勢 (2学期中間考査)

組	部活動	英語	社会	数学	物理	化学	生物	保健	芸術	英語	学習時間	自宅学習時間	
3	バドミントン	1,3	3							4,5,6	2,3,5	600	43
3	バドミントン											920	66
7	バドミントン											1890	135
7	バドミントン											2980	214
7	バドミントン											1705	122
9	バドミントン											2020	144
10	バドミントン											1760	28
10	バドミントン											1830	11

授業中の態度・提出物などの記録

学習強化週間期間中の学習時間

部活名

1. 欠課・遅刻が多い
2. 教科書等の忘れ物が多い
3. 提出物を出さない、あるいは期限内に大幅に遅れることが多い
4. 私語など、授業妨害がある
5. 居眠り・携帯電話など、授業参加ができていない
6. 指導に応じない

課題(7)	「将来展望を持たせ学習意欲を向上させる」
課題背景	自分の将来を見通すことで、日々の学習に励む
具体的な対応	○ 龍谷大学との高大連携事業 ○ 農業教育を通じた国際交流 (台湾 礎文高校との交流) ○ 地元小・中学校との連携 (環境出前講座実施) ○ 環境問題に関する研究 (屋上緑化・キノア・スイーツ・ネギ栽培・) ○ キャリアプランガイダンスの実施
成果と課題	2年生専門学科「自宅学習をしない」生徒が 1年次秋→2年次夏 41%→25%に減少 (16%改善) 進路マップ実力診断テスト学習状況調査による <継続実施>

課題(8) 「教職員の指導力向上」

課題背景 組織的に授業改善に取り組むことで基礎学力を定着させる

具体的な対応

- 学力・学習状況分析結果研修会の実施 (リアルタイムで報告)
- 授業アンケートの分析
- 地元中学校との授業参観交流

成果と課題

- 学習状況や学力状況の推移を素早く全教職員で共有しデータを基に計画、修正を行った。
- 授業の在り方に課題が見つかった。

<継続実施>

各学期に2回以上の学習・学力状況分析結果を報告し現状を共有 (1例:4月の結果を5月に報告)

2年生の学習状況の特徴

H21年度入学生 学習状況調査(スタディサポート)より

質問名	選択肢	H22年度入学生	H21年度の2年生	状況・対応
進路意識(希望進路)	進路未定の生徒	18.4%	23.0%	学習状況の分析
学習方法	成績を伸ばしたい方法がわからない	23.8%	17.7%	各教科丁寧なOTの実施で対応
部活動と学習の両立	部活動で疲れ、自宅での学習に集中できない	40.0%	29.8%	部活動生徒の指導・・・2学期実施予定
平日の学習時間	ほとんどしない	59.1%	66.9%	少し改善したが、6割が平日学習しない
	30分	20.5%	14.6%	
休日の学習時間	ほとんどしない	48.2%	57.9%	少し改善したが、半数が休日学習しない
	30分	18.2%	15.7%	
	1時間以上(総計)	33.7%	25.7%	
国語の平日の学習時間	ほとんどしない	86.1%	87.6%	全体的に改善傾向、英語で10%改善
英語の平日の学習時間	ほとんどしない	62.4%	71.8%	

進路意識・学習方法・両立・学習時間

4月段階で学習状況の分析結果を共有

2年生 昨年度の2年生

各教科自宅での学習内容	2年生	昨年度の2年生	
古典	宿題と予習	5.6%	3.4%
	宿題と復習	9.1%	5.9%
	自宅では何もしない	28.5%	36.5%
数学	宿題と予習	4.5%	1.7%
	宿題と復習	21.0%	13.5%
	自宅では何もしない	22.2%	29.2%
英語	宿題と予習	13.1%	7.3%
	宿題と復習	13.6%	6.5%
	自宅では何もしない	20.5%	28.4%

定期考査学習の開始時期の調査

定期試験学習の開始時期	国語	英語
2週間以上前から開始	12.4%	10.7%
数学	18.4%	14.6%
英語	19.9%	13.8%

昨年度の2年生: 昨年の2年生と比べ、どの教科も自宅で、「宿題と予習」「宿題と復習」をする生徒が増加。「自宅では何もしない」生徒が減少している。各教科の「宿題と予習」「宿題と復習」をさせるような指導の効果が少しずつ出てきたのではないかと。

普通科I類学力状況の推移 H23春→秋 比較

ベネッセ進路マップ実力テスト「学習到達ゾーン」

普通科I類1年生 (発展クラスを除く5クラス) B・Cゾーンが減少し Dゾーンが増加

普通科I類2年生 (発展クラスを除く4クラス) B・Cゾーンが増加し Dゾーンが減少

平成22年度取組の成果と課題

- 「学習時間の増加」20%(春→冬)
- 「学習をしない生徒の減少」

▼実力テストなどの状況から、総合的にみて、学力が向上したとはいえない状況

↓

「学習状況には改善の兆し」が見られるが、「学力状況の改善」にはいたっていない。

H22.7月 授業アンケートより

全学年 トータル 集計結果	授業の満足度	%
満足	37%	
まあ満足	41%	
やや不満	12%	
不満	4%	
未回答	7%	

授業態度で生徒自身が反省すべき点	1年	2年	3年
自身の反省点			
予習ができていない	78%	77%	74%
復習ができていない	68%	68%	63%

約8割の生徒が授業に満足している

実力テストや模試に成果が現れない

約7割の生徒が予習復習ができていない

特別活動(HRなど)(1年生抜粋)

各教科	今現在、行われている(いた)こと(現状)	今後、「書かせる指導」が可能な事項
	H22.各教科シラバス等より	
総合的な学習の時間	課題学習 などの 発表など	
1年生		
特別活動	主に、HR活動、学校行事	
入学前	私の夢	
入学時～学級日記	当学期でしっかり書かせる。	
遠足	遠足の感想文	
人権学習	人権学習感想文	
文化祭	文化祭感想文	
体育祭	体育祭感想文	
人権映画鑑賞	人権学習感想文	
大学生の話を聴く会	感想文(自分に生き方を考えさせる)	
キャリアプラクティス	ほもの	
1年間をふりかえって	感想(指導要録記入用紙)	

現在まで行われてきた
学校行事や進路行事・
HR活動での感想文など

平成22年度「学力向上フロンティア校」事業の成果と課題より「平成23年度事業計画」へ

成果のあった事業

(1)～(8)の事業は、**6つ**に整理統合し継続して実施

ねらい：両者が相互に相乗効果をあげながら基礎学力を定着、向上させる

新たな課題への対応

「ことばの力」育成教育活動全体をとおして、「文章を書かせる指導」を実施

H23フロンティア校予定事業

「従来の取組の精選」+「文章を書かせる指導」 ＝「基礎学力の育成」

- (1) 中学校での学習内容の定着と学習方法の指導
→「地元中学校との授業参観交流」「振り返り学習」「学習オリエンテーション」
- (2) **基礎学力や人間関係能力の基盤となる取組の必要性**
→「文章を書かせる指導」(ことばの力の育成)
- (3) 家庭学習習慣の確立と計画的な学習
→「学習強化週間」
- (4) 部活動のリーダーが学習活動をリードする存在に
→「部活動参加生徒への顧問からの学習指導」
- (5) 将来を展望させる
→「高大連携事業」「環境問題に関する研究」
- (6) 教職員の指導力向上
→「授業アンケート分析、学力学習状況分析研修会の実施と結果活用」
- (7) **教職員の多忙感への配慮**
→「既存の取組・既存の組織・既存のデータを活用」「全校体制で取り組む」

運営体制

教育企画部が中心となって
各分掌、教科と連携し
担当者会議を行い**計画立案**

↓
部長会を

「学力向上フロンティア推進会議」として位置づけ、
教科主任会と連携し事業を推進する。

主な経費

- ・ 報償費
…講師謝金等
- ・ 教材費
…振り返り学習教材等
- ・ バス借り上げ料
…高大連携事業等
- ・ 交流研究費
…研究発表会等
- ・ 視察費
…先進校視察

評価計画 (チェック体制)

■数値による評価

- ・ 学習状況調査結果
- ・ 実力テスト・模擬試験の推移等分析
- ・ 部活動加入率・実績
- ・ 中学生対象の説明会参加人数
- ・ 志願状況
- ・ 進路結果分析

■アンケート等によるもの

- ・ 授業アンケート
- ・ 保護者による**学校評価アンケート**

公表計画

- (1) **新入生オリエンテーション**
- (2) **学校便り、HP**
- (3) **学校紹介資料**
- (4) **外部説明会、本校の学校説明会**
- (5) **PTA総会、学校評議員会**

KATSURA

ご静聴ありがとうございました



KATSURA